

【二月の言葉（令和二年）】

「自力」とは自分に酔うこと、

「他力」とは心の眼が覚めること

「他力」とは、浄土真宗の教義の根幹を示す大切な言葉です。世間では「他力本願」という語が、自分の努力を否定し「人まかせ」という意味で使われていますが、これは大きな誤りです。

「他力」とは、阿弥陀如来が、愚かな私を照らし、救い導いてくださる力（本願力）のことです。他力（本願力）とは、誰しもが持つ慢心やプライド、自己中心性を自省させ、正しい方向に導いていく力を意味します。

浄土真宗は、あらゆる宗教の中で、最も自分の本性を見つめ、反省する教えと言えるでしょう。自分に酔うことなく、自らを省み、生かされていること・願われていることに感謝し、かけがえのない人生を穏やかに生きていきたいものです。